

ex 1197-A

2496A-1

一九四六年三月廿六日、永野修身ニ對スル訊問ヨリノ抜萃

問！大將、閣下ハ何時頃眞珠灣攻撃計畫ニ賛成シマシタカ。

答！十月ノ終リカ十一月ノ始メデス。艦隊側ト軍令部トノ間ニハ可成リノ議論ガアリマシタ。艦隊ハ眞珠灣攻撃ヲ濠ビ海軍軍務局ハ之ヲ余リニモ投機的トシ米艦隊ヲ南太平洋諸島ニ邀撃スル溫存戦法ヲ選ビマシタ。山本大將ハ彼ノ眞珠灣攻撃作戰ノ信念ニ凝リ固マツテキマシタ。ソツテ若シ彼ノ計畫ガ實行ニ移サレナイナラバ幕僚ヲ引進レテ身ヲ退クト感シマシタ。

問！大將、此ノ時既に此ノ計畫ハ海上並ニ海軍々令部ノ机上ニ於テ事前ノ機動演習ガ完結シテキタノデハアリマセンカ。

答！ソウデス。艦隊ハ非常ニ前線シマシタ。

問！ソレデ、大將、海軍々務局ト山本大將トノ意見ノ衝突ヲ眞珠灣攻撃ニアナタガ決裁シタノハ何時デスカ。

答！私ハ始メ軍令部ニ賛成シテキマシタガ、山本ガ非常ニ強硬ダツタノデ先ニ申シ越ベタ通り十月ノ終リカ十一月ノ始メニ眞珠灣攻撃ノ計畫ニ賛成シマシタ。海軍々務局ハ彼等ノ長年ノ計畫デアル所ノ南太平洋諸島ニ米艦隊ヲ邀撃スル作戰

2496A-2

ヲ決行スル事ニ賛成デシタ。

問一 而シ大將、私ノ解釋スルトコロテハ閣下ハ海軍
軍務局長が長年ノ成果ニ依ル計畫ヲ圖執シタニモ
拘ラズ、眞珠灣攻撃が最上デアルトノ結論ニ達
シ、眞珠灣攻撃ヲ是認シテ此ノ意見ノ衝突ヲ解
決シタノデアリマスネ、ソウデ有リマセンカ。

答一 私ニハ軍令部ノ計畫ノ方が合理的デアルト思ハ
レタノデ、之ヲ希望シマシタガ若シ艦隊司令長
官ノ計畫が通ラネケレバ彼ハ辭職スルダラウカ
ラ艦隊司令長官ヲ辭職サセヌタメニハ賛成スル
ノガ最良ノ策ダト考ヘマシタ。

問一 ソレデ閣下ハ眞珠灣攻撃計畫ニ賛成シタノデス
ネ。

答一 ソウデス。

問一 其ノ間ノ事情ヲ解釋スルニ、大將、閣下ノ此ノ
賛成が眞珠灣攻撃ノ決定長因ダツタノデアリマ
スネ、ソウデハ有リマセンカ。

答一 ソウデス。

問一 ソレデ私ノ考ヘテハ大將ハ事實ニ徴シ之ニ對シ
喜ンデ責任ヲ負フモノト考ヘマスガ、閣下如何
デセウカ。

答一 勿論。

問一 大將、艦隊が眞珠灣攻撃ヲ決行スル爲、配置ニ

2496A-3

就ク最初ノ命令ヲ受ケタノハ何時頃デスカ。

答一 艦隊ハ十一月中旬ニ千島ニ集結シ、十一月二十六日乃至二十七日ニ興珠灣ニ向ケ出發シマッタ。

問一 大將、實際ノ處、一九四一年（昭和十六年）十一月二十八日乃至二十九日頃、連絡會議が催サレタノデハアリマセシカ。之ニハ東條首相、東郷外相、賀屋藏相、鈴木内閣企畫院總裁、杉山參謀總長、同次長田邊大將、軍令部總長ノ閣下、同次長伊藤少將、寺島通相、井野農相、星野内閣書記官長、陸軍々務局長武蔵將軍、海軍々務局長岡中將が對米戰爭決定ヲ完結スベク參集シタノデハアリマセシカ。

答一 私ハ期日ニ就イテハ明確デアリマセシガ其ノ通りダト思ヒマス。然シ我々ハ益クギリ々々最終迄平和確立ヲ希望シ本當ノ最後適機ヲ攻戰ノ計畫ヲ放棄スル用意ハ持ツテキタ。此ノ名簿ニハ海軍大臣島田大將が簽テテキマス。